

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
みらいへの挑戦 ～Go forward～	①あいさつと歌声が響く学校づくりの推進 ②生徒理解に基づいた生徒指導の実践と自主・自立の気概のある児童生徒の育成の推進 ③義務教育学校の特性を活かし、全職員が目指す方向性を理解し、取り組む学校づくりの推進

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価							
① あいさつと歌声が響く学校づくりの推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○母校の誇りづくり	挨拶と歌声が響く学校	・行事等で「効果を大きな声で歌う」児童生徒の割合が80%以上を目指す。 ・自ら「元氣よく挨拶をする」児童生徒の割合が80%以上を目指す。	・全校集会や児童生徒集会では児童生徒が前に立って自分たちで校歌を歌う場面を取り入れる。 ・挨拶について児童生徒会と連携し、自分たちのためあてを決め実践させる。	B	昨年度よりも歌声や挨拶の声は大きくなってきたが、高等部の生徒の声がまだ十分でない。保護者のそのように感じている。	高等部の生徒の意識を高める。そのための活躍の場を意図的に設定する。
② 生徒理解に基づいた生徒指導の実践と自主・自立の気概ある児童生徒の育成の推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめのない協力的な人間関係づくり	・段階に応じた「人権集会」による心の教育と、学校行事や集会を通して望ましい人間関係づくりを通して自己有用感を高める。	・Q-Uテストや生活アンケートを通して、人間関係を把握し、いじめの早期発見・早期対応を進める。 ・人権集会や全校集会等で人権に関する話をするとともに、発達段階に応じた指導を実施する。	B	アンケートや実態調査から、友立ちと仲良くしている児童生徒の割合が増えてきた。いじめの件数も減少している。	Q-Uテストを実施した結果を学級経営や集団づくりに活かす。人権集会を継続して意識の高揚を図る。
教育活動	○生徒指導の充実	共感的な生徒理解に基づいた生徒指導の実践	・教育相談や日常の児童生徒との触れ合いを通して、教師と気軽に相談できるという児童生徒が90%以上になるようにする。	・定期的な教育相談や生活アンケートを実施し、児童生徒の変化に対応する。 ・不登校対策委員会を通して、不登校の背景と解決に向けた方策を検討する。 ・生徒指導連絡会を通じて、学年だけでなく、学年や全校で情報を共有する。	B	毎月の生活アンケートにおいても、決まりを守る児童生徒の割合が多い。教師に気軽に相談できる児童生徒の割合が90%に達していない。	1年生から9年生まで一貫した生徒指導の基礎ができたので、更に実態を踏まえた取り組みや保護者への啓発を進めていく。
教育活動	○特別支援教育の推進	教員の意識の高揚と連携強化	・特別支援に関する研修会を実施し、教員の専門性が高まったと感じる割合を90%以上にする。	・特別支援教育コーディネーターを中心として年3回の研修会を実施する。 ・ケース会議を開き、個別の対応を具体的に検討する。	A	学期に1回の計画的な研修会が実施できた。また、児童生徒の実態に合わせたケース会議を実施することができた。	定期的な研修会やケース会議を継続していく。SCやSSWとの連携をさらに強化する。
教育活動	●健康・体づくり	体力の向上	・立腰の意義の理解と啓発を行い、正しい姿勢で学習に取り組む児童生徒の割合を80%以上にする。 ・客車の車による送り迎えを減らし、自転車や歩いて登校する児童生徒の割合を95%にする。	・活動の開始前に必ず立腰をさせ、意識を持たせ、全職員で一斉に取り組む。 ・スクールバス委員と連携し、登下校時PTAや教員委員会と連携し、登下校時に歩くことや自転車、登校を推進する。	A	立腰の意識を高めることができ、物事の初めと終わりは必ず立腰をし、静かな環境の中で始めたり終わったりすることができた。	歩いて登校する児童生徒が増えてきた。この取り組みを継続していく。掃除前の立腰は全校一斉にできているので、これをさらに進めていく。
③ 義務教育学校の特性を活かし、全職員が目指す方向性を理解し、取り組む学校づくりの推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校経営基本方針	学園教育目標の周知	・児童生徒、保護者、地域への教育目標の周知を図り、認知度を80%以上にする。	・全校集会、PTA総会等で教育目標について説明するとともに、学校における連絡メール等に周知することにより目に触れる機会を増やし、周知を図る。 ・学校、学年、学級などの定期的な発行と学校ホームページを定期的に更新し周知を図る。	A	学校教育目標を知っている児童生徒の割合が80%以上であった。保護者の周知の割合が高まった。	学校教育目標の周知はできてきた。後は、その具体的な内容を知ること、実践することにつなげていかなければならない。
教育活動	●学力の向上	基礎・基本の定着を図る	・12月調査において、県平均に対する値を4月調査よりポイント上回る。 ・家庭学習の習慣化と自主学習の内容の充実を図る。	・玄關タイム(毎日のドリル学習の時間)やITを効果的に活用し、個別の定着を充実させることにより、基本の定着を図る。 ・自主学習ノートNew Friendsを有効的に活用し、よい事例を紹介し、各児童生徒の内容を充実させる。	B	設定目標の達成は実現できなかったが、授業中の態度や課題の提出等には改善が見られた。	授業中の態度は落ち着いており、発表も意欲的な児童生徒が多い。家庭学習の習慣化と内容の充実のための保護者への啓発が必要である。
教育活動	●心の教育	望ましい集団作り	・学年・異文化との交流を通して思いやりの心を育てる。	・体育大会や文化祭委員会等の行事を通して他学年と交流する機会を作る。 ・地元の生徒との交流を通して、異文化に触れる体験をさせる。	A	異学年との交流を実施することができた。地域や保護者からもよい取り組みであったと評価された。	縦割り活動の充実で、全学年を通して活動を取り入れる。また、体育大会や文化発表会での異学年との協働を計画的に取り入れる。
教育活動	○海洋教育の推進	主体的に学び、積極的に発信できる児童生徒の育成	・海に関する学習を通して、総合的な学びを深め、積極的に表現する力を育成する。	・系統的・横断的なカリキュラムを作成し、学年に応じた内容を実施する。 ・学んだことを発表する機会を作り、情報発信することで、学びを育てる。	A	全学年を通して、計画的に実施することができた。また、学園代表として、県外で発表を外部への発信もできた。	今年度の海洋教育を基本として継続し、みらい学園としての系統性を確立させる。また、本地域の中核としての意識を高める。
学校運営	○開かれた学校づくり	保護者や地域の方々の学校行事や学校運営への参加促進	・生活科、社会科、総合的な学習の時間において、地域の方を活用した授業を積極的に実施する。	・地域の方を講師とした授業を実施し、地域との連携を深める。 ・授業参観、学校行事等において保護者だけでなく、地域の方にも参観を呼びかけ学校の状況を観てもらおう機会を作る。	A	初等、中等部を中心に地域のの方々を講師としての授業や交流ができた。	海洋教育との繋がりを意識し、年間計画を見直し、総合的な学習や生活科において内容の充実を図る。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	◎教育の質の向上に向けたICT利活用教育の推進	ICTを活用した授業の実践	・関心意欲を高めるだけでなく、理解を深める活用の推進。 ・研修を通して、活用できると感じる職員を100%にする。	・電子黒板を活用し、学習への関心意欲を高めることにも、基礎基本の定着を図る。 ・ICT支援員を活用し、全職員の活用力を高める研修会を実施する。	A	全職員が、電子黒板等のICTを活用を意識した授業を展開することができた。	ICT支援員を活用した研修会を通して、より効果的な利活用についての知識や指導方法を身につけ、授業で実践する。
学校運営	○危機管理	児童生徒の安全を守る取り組みの徹底	・児童生徒の安全意識を高める。 ・保護者や地域と連携した取り組みによる危機管理意識の高揚。	・地域、高等学校、関係機関等と連携し、避難訓練を年3回実施する。 ・日常における危機回避のための危険箇所等について、新入で確認したり、防災について話し合う機会を作る。	A	通学路の点検を実施し、各地域の危険箇所を把握することになった。避難訓練も計画的に実施することができた。	地域と連携した避難訓練を継続し、通学路については教育委員会と連携して改善策を検討する。

4 本年度のまとめ ・ 次年度の取組	学校教育目標をみらいへの挑戦～Go forward～として、児童生徒や保護者への周知ができ、全職員で連携した取り組みができ、その成果が表われてきた。特に1年生と7年生の体験学習や体育大会、文化祭表会での連携・協働は今後の参考になるものがあった。これをさらに広げていくことで、義務教育学校の良さがさらに活用できるものと思われる。学力向上の点では、家庭学習の習慣化と学習名用の充実が喫緊の課題である。児童生徒は落ち着いて授業に臨んでいるので、学習内容の定着のために、家庭学習を含めた家庭生活の改善が必要である。
--------------------	---

●は共通評価項目、○は独自評価項目